

# S なごや「聖歌」だより 12月号 20

## 目で見るとともに

### 神は我等とともに

降誕祭の晩堂大課の始まりに何度も歌われます。

「神は我等とともにす」神は私たちとともに居る、どういう意味があるのでしょうか。

神はこの世界すべてをお造りになった方です。旧約聖書の時代には顔を合わせたら死んでしまうといわれていました。創られた私たちを遙かに超える方です。

その神が、病と死、憎しみやねたみやわがままに囚われて苦しむ私たちを救うために「人」となりました。私たちと一緒に居て、苦しみや悲しみを分かち合って下さいます。やがて来る復活の喜びへ、手を取って引き上げて下さいます。

\* \* \*

救世主の到来は旧約聖書に預言されていました。

その一つイサイヤの預言書の一節が読めます。

「神は我等とともにす」全文を歌った後、預言書の一句一句に続いて「神は我等とともにすればなり」と歌います。今預言は成就した、神は私たちとともにいると力強く答えます。



**神は我等とともにす、  
異邦人や、これを知りて従へよ、  
神は我等とともにすればなり**

地の果てまでもこれを聴け、  
権力ある者よ、従へよ、  
また勢いを張らば、また敗られん、  
謀を設けば、主はこれをこぼたん、  
ことばを出ださば、必ず成らざらん、  
爾等の畏る所は我等畏れず、驚かず、  
主我が神を以て聖と為す、彼は我が畏れとならん、  
我彼を頼まば必ず我を聖にせん、  
我彼を望み、彼によりて救を得ん、  
視よ、我及び神が我に与へたる諸子はここに在り、  
くらやみの中を行く民は大いなる光を見たり、  
死のかげの地に居る者よ、光は爾等を照らさん、

けだし、おさなごは我等の爲に生れ、子は我等に賜はりたり、

権柄はその肩に在り、  
その和平は終わりなし、  
其の名は大なる議事の使者と称へらる、  
神妙なる議士と称へらる、  
大能の神、主宰、和平の君と称へらる、  
来世の父と称へらる、

<イサイヤ(イザヤ)の預言書8:9~9:7>

光荣は父と子と聖神に歸す、  
今も何時も世々にアミン

**神は我等とともにす、  
異邦人や、これを知りて従へよ、  
神は我等とともにすればなり**

## ウラディミル神学校の聖歌研修 その3

### 3. 伝統のいのり - 共働のいのり

今年の研修会のメインテーマは「生ける伝統」Living Traditionです。正教会は伝統を重んじる教会と言いますが、奉神礼の古い形を見ることで、何が大切にされてきたか、そこにどんな意味があるかを考えました。

ポール・マイエンドルフ教授は前期ビザンティンの洗礼の儀式について、アレックス・リングス教授はビザンティンの会衆唱について、マーク・ベイリー講師は「聖入」にスポットをあてて講演されました。いずれも、かつて会衆全体が積極的に奉神礼に参加していたことが強調され、中でも「行進」と「会話」を正教会の大切な伝統として取り上げられました。

「行進」は十字行や聖入、洗礼時に洗礼盤を3度回るなど今でも行われていますが、元々は市中を廻る行列であり、文字通り聖堂に入る動きであり、別棟の洗礼聖堂から信者の集う聖体礼儀の聖堂に向かう行進でした。これらは実際の場所移動でしたが、同時に神学的に「教会へ」「聖なる方へ」向かう神の民の永遠の歩みを表しています。現在では「聖入」は神品が至聖所から出て王門を通過してまた至聖所に戻るだけの動きですが、気持ちの上では、集まった者すべてが神の国



マーク・ベイリー講師 聖歌の実習も教えて頂きました。実習の様子は次回に

マリア松島純子

ポール・マイエンドルフ教授  
(お父上はジョン・マイエンドルフ神父)



へと入ってゆく歩みです。

実際に歩きながら「聖なる神」や「聖にして福たる」を歌ってみました。不思議なことに体を動かしながら歌うと、この歌が行進の歌であることがはっきり見えてきます。曲としてどんなに美しくても、逆に単純でも、奉神礼の動きや歌の意味とマッチしないものはふさわしくありません。

また、古代の聖堂はイコノスタスの仕切りが低かったため神品と参拝者が身近で、今は黙唱になって「蓋」以下しか聞こえませんが「アミン」は神品の唱える祝文全体に対する会衆の応答で、今よりさらに頻繁に祈りの会話が交わされていました。

聖歌者はクリロス（聖堂前方の高くなったところ）に立ち至聖所と聖所を繋ぐ役目を果たし、左右に分かれてアンティフォン（掛け合い）で歌いました。会衆も消極的な聞き手ではなく、ソロの歌う聖詠の句に続いて、全員がリフレイン（繰り返し部分）を歌って答え、積極的に祈りに参加していました。

実際に聖堂で左右に分かれて掛け合いで歌ってみたり、早課の「我が心は主を崇め」を代表者がトリオで歌い、リフレインの「ヘルビムより尊く」を残り全員で歌ってみました。交互に歌がゆきかい、祈りの「会話」に結ばれて、集まった者が心を合わせて一つになる実感が増します。

正教会の奉神礼は「私」が集まって「私たち」になって祈る共働（リトゥルギア）です。古代の祈りの形は、それをはっきりと表していました。

(つづく)

## お知らせ

### 毎月練習日

今月は降誕祭までに代式祈禱がないので、毎主日祈禱後練習します。

### 聖歌基礎からレッスン(今月は降誕祭)

12月4日(木) 聖体礼儀後

12月19日(金) 聖体礼儀後

### ホームページのご案内

もう少し詳しく

東方正教会の聖歌

<http://www.orthodox-jp.com/maria>

なごや聖歌だよりのホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>